

琉球・沖縄と京都の「つながり」

～自治・自立と人権のまちづくりを目指して～

柳原銀行記念資料館では、これまで、部落問題に関する特別展に加えて、在日コリアン（2004年度）、ハンセン病回復者（2008年度）、「性同一性障害」（2010年度）、アイヌ民族（2011年度）に関する企画展を実施するなど、様々な人権課題に取り組んできました。この度、琉球・沖縄と京都の関係史を取り上げ、自治・自立と人権のまちづくりについて考えたいと、本企画展を実施することになりました。

鮮やかな衣装で太鼓を叩きながら勇壮に踊る「エイサー」、独特の音色の「三線^{さんしん}」、焼酎とはまた違った風味の「泡盛」などを通じて、私たちは「沖縄文化」を当たり前のように享受することができます。青い海、白いサンゴ礁など、遠く離れた観光の島としてイメージされる沖縄県ですが、実は京都とも様々な縁があります。

沖縄県は、1429年に沖縄本島を中心に形成された琉球王国に起源を持ちます。奄美諸島や沖縄諸島を含めて「琉球弧」と呼ばれる政治的・文化的圏域を持っていましたが、1609年に島津藩が侵攻して以降、幕藩体制の支配下に置かれます。明治新政府は、1872年に「琉球藩」を設置し、1879年に「沖縄県」を設置します。廃藩置県に基づくこれら一連の施策を「琉球処分」といい、処分官であった松田道之は、京都府大参事（現在の副知事に相当）を務め、番組小学校や文化施設の建設に尽力した人物でした。

京都三条にある檀王法林寺^{だんのう}では、京都沖縄県人会主催の芸能・文化イベントが毎年行われ、京都に移住した沖縄県人の文化・ルーツを大切にする中心的な場になっています。同寺を創建した袋中上人^{たいちゅうしょうにん}（1552～1639）は、琉球に浄土宗を伝えた僧侶として知られ、その際に伝わった念仏踊はエイサーの起源といわれています。また、エイサーに登場する、顔面を白く塗り、踊りながら隊列の整理を行う「チョンダラー（京太郎）」と呼ばれる人々は、戦前まで芸能民の村を形成しており、詞にはヤマトウ（日本・京都）の門付芸^{かどづけ}（万歳）の影響が見てとれます。

「琉球処分」以降、沖縄県移住者が多い地域では、「職工募集 ただし、朝鮮人・琉球人お断り」と書かれた貼り紙が見られ、また、低湿地帯など劣悪な住環境で生活することを余儀なくされ、厳しい生活を強いられてきました。そこで、同郷人が結束し改善を図り、各地に県人会を結成していきます。一方、沖縄県では、日本の在日米軍基地の7割以上が今なお集中し、基地と隣合せであることによる事件・事故などが多発し、住民の生命と財産が脅かされる人権侵害が生じています。それに対し、基地返還を進め、跡地を活用したまちづくりが地道に取り組まれており、自治・自立を目指した人権のまちづくりにも参考になります。

このような琉球・沖縄と京都の関係史から学ぶことで、自治・自立と人権のまちづくりに与えることができれば幸いです。本企画展は、龍谷大学社会科学研究所附属民際学研究センター、龍谷大学経済学部松島泰勝ゼミ、多くの京都在住の沖縄出身の方々から協力を頂き、その他多くの方々に資料などを提供していただきました。ここに感謝申し上げます。